

MIDDLE1600_7

1601: ぼうじょう かいはつ しっぱい
棒 状 のツイータを開 発しようとしたが、失 敗しました。

1602: くさかんむり かんじ じょしゅ れっきょ
草 冠 の漢字を、助 手のビシュケクに列 挙させました。

1603: りゅうさん さま さわ
それ 硫 酸 だから、デヨン様 に触らせちゃダメでしょ？

1604: ふむ、プラスコーヴィヤを潰すとは、穏やかじゃないですな。

1605: は ざっそう いか じょそうざい ま
ニョキニョキと生える 雑 草 に怒るメツァンジェが、除 草 剤 を撒きました。

1606: かぎ あ さま はなし いま
鍵 は開けてますので、ピュイゼギユール様 と 話 をするなら今です。

1607: ミエンミエンとツェペリは、ジェット機でニューヨークに進 軍しました。

1608: ちよしよ あらすじ くろう
フォーゲルヴァイテは、著 書 の粗 筋 をまとめることに苦 勞 してます。

1609: こども あい まつ
キンダーツェッヒェは、子 供 への愛 がある 祭 りですね。

1610: かず こ むり おも
バーディの数でペルッティを超えるのは、無 理 じゃと思 うがの。

1611: か おとず
ギュリヴェールに勝つつもりなら、ツェグヴェリを 訪 れてみなされ。

1612: ぼこく しつぼう たこく き か き
ピアッツァは母国に失 望 し、他国へ帰化することを決めました。

1613: のど しゅよう み なや
ダミヤノヴォは、喉 に腫 瘍 が見つかり悩んでいます。

1614: し じ つく
このひょっとこは、バルニャーニの指 示 で作 ったものです。

1615: とくしゅのうりよく す み
デュプレには特 殊 能 力 があり、なんでも透けて見えるそうです。

1616: みょうれい きよきよじつじつ か ひ かいきよ と
妙 齢 のパティシエールが、虚 々 実 々の駆け引きで快 挙 を遂げました。

1617: ねぐる かごまくら あ
チュルゴが寝苦しかったのは、籠 枕 が合わなかったからです。

1618: わたし あに さが もと はやじ
私 の兄 は、クオデネンツを探し求め、早 死 にしちゃったのです。

1619: かざぐるま つく あそ はや
ポロヴェーツィケでは、風 車 を作る遊 び が流行ってるそうです。

1620: よくしつ は さきほど じよきよ
浴 室 にカビが生えたので、先 程 からカミュが除 去 してます。

- 1621: ツォンカパは、^{れつきよ}列^{きようざい}挙^{かきよ}された^{かん}教^{えら}材^{えら}から、科学に関するものを選ぶでしょう。
- 1622: 「きえー」と^{さけ}叫^{ははおや}び^{しか}ベッドでピョンピョンしていたら、母親に叱られました。
- 1623: ミャオミャオと鳴いてるのは、じゃれて^な花瓶^{かびん}を割^わったから？
- 1624: ポリネシアの使者から、^{ししや}祝^{しゆくふく}福^{おことば}の御言葉^{たまわ}を賜^{たまわ}りましたよ。
- 1625: ズギェシに^{きよじゅう}居^{にんぶ}住^{たす}の妊婦^{もと}が、助けを求めてきました。
- 1626: 度忘れしたけど、ヘカトンピュロスにゾフィーの手紙^{てがみ}があるはずです。
- 1627: ヴァレンティヌスは意中^{いちゆう}の人^{ひと}を失^{うしな}い、首位^{しゆい}からも脱^{だつらく}落^{だつらく}しました。
- 1628: ジェムチュージニコフの巨額^{きよがく}な借^{しゃ}金^{つきん}は、宝^{たから}くじ^あが当^{かえ}たり返^{かえ}せました。
- 1629: ニュメツのお歳暮^{せいぼ}は、ヴェネツィアで作^{つく}られたジャムでした。
- 1630: アンニュイと言うが変人^いなだけなので、ぼちぼち愛想^{あいそ}を尽^つかすね。
- 1631: 何^{なに}やらグジェゴシが、パヴェウとピーチジュースを作^{つく}ってます。
- 1632: チェレスティーナが糾弾^{きゆうだん}されたが、ビュルがフォローし事無^{ことな}きを^え得^えました。
- 1633: 疑^{うたが}わしきジャッジでウィジャヤさんを欠^かくのは、かなりの痛手^{いたで}ですな。
- 1634: ^{この}九^{とき}つの時^{ひようひよう}に、飄^し々^あとしているデムシュと知り合いました。
- 1635: ギャヴァとギェナーは犬猿^{けんえん}の仲^{なか}で、仲裁^{ちゆうさい}できそうもありません。
- 1636: 略^{りやくれき}歴^ふに触^{きよめい}れることなく虚名^{きよぎよう}もばれずに、虚業^{はじ}を始めます。
- 1637: 寄席^{よせ}に行くけど、折角^いだからグアニーとイビュコスも行^いきましょ。
- 1638: リュギヨンスが、難^{むずか}しいミュージカルの脚^{きゃくほん}本^{とまど}に戸惑^{とまど}っています。
- 1639: ジャヴァヒシヴィリは、貧^{まず}しい街^{まち}で育^{そだ}ち、ハングリー精^{せいしん}神^みに満ちてます。
- 1640: ビールとレモネードを均^{きんいつ}一^{ひりつ}な比率^まで混^まぜ、パナシェ^{つく}を作^{つく}りましょう。
- 1641: ポニャトスキーの怒号^{どごう}が轟^{とどろ}きましたが、ひょっとして非常^{ひじょうじたい}事態^{ひじょうじたい}？

- 1642: ヒュドラを^{ほろ}滅^ぶぼす^{かい}武具^{はつ}の開^る発^りには、瑠璃とヒュパティアが^{ひつ}必^{よう}要^{じや}じゃ。
- 1643: イェナーキエヴェでのディナーで、キューブカップの^{つめ}冷^びたい^みジェラートが美味でした。
- 1644: えっと、^{ちゃ}茶^ば柱^{しら}が^た立^ひった^{でき}日の出来事を、ボスのシャンティに^{こう}口^{じゅ}述^つしました。
- 1645: ^{よう}幼^{じゃ}弱^くな^{わか}若^ぎ君^みのラングミュアですが、キレるとヤバイですよ。
- 1646: トゥヴィエとジャーヴィスの^け決^つ闘^{とう}、どっちが勝つか賭けましょか。
- 1647: チグウは、絶えることなく^{ねん}念^ぶ仏^つを^{とな}唱^しえるよう、指示されました。
- 1648: 屋形船でウェツェルがプロポーズして、^{こと}断^わられたらしいわ。
- 1649: 中^{ちゅう}止^しは^い潔^{さぎ}いけど、やっぱパーニョ^{りょ}旅^{こう}行^うはやりたいな。
- 1650: 究^{きゅう}極^{きよく}のシェフによる鹿^{しか}肉^{にく}の^{ひゃ}フアル^っファツレ^{きん}が、百^{ひゃく}均^{きん}にあります。
- 1651: カルヴァーリョが、奈落の^{なら}底^{そこ}の^じ地^{ごく}獄^{えず}絵^{てん}図^じを展示するんですってね。
- 1652: 喉^{のど}が^{かわ}渴^くくと、ヘーフエヴァイツェンでもグイっとやりたくなるね。
- 1653: スツォは指^{ゆび}の^{じょう}静^{みやく}脈^{きず}が^{しも}傷^んつき、指^し紋^{もん}認^{にん}証^{しょう}できなくなりました。
- 1654: プレクムリエから、^{げん}厳^ぶ封^うされた^{なに}何^とかが^ど届^どいてます。
- 1655: スイートポテトが、^{なん}難^き局^{きよく}を^ふ乗^かり^け切^つるには不可欠です。
- 1656: エリュシオンの^{ふう}封^{いん}印^とが^{にく}解^{たい}け、^{しょう}テュ^{めつ}ポーン^{めつ}の^{しょう}肉^{めつ}体^{めつ}は^{しょう}消^{めつ}滅^{めつ}しました。
- 1657: ^{りょ}緑^く ^{おう}黄^{しよく} ^{しよく}色^{やさい} ^た野^{むび}菜^{ょう}を^{そく}ガツツリ^{さい}食^{さい}べれば、無^む病^{びょう}息^{そく}災^{さい}ですよ。
- 1658: ゲズィーラのオペラハウスで、^{おど}パラ^{おど}パラでも踊^{おど}りましょ。
- 1659: ビェンカの^え笑^が顔^おは、^{ごと}タン^{まわ}ポポの^{なご}如^{なご}く^{なご}周^{なご}りを^{なご}和^{なご}やかにします。
- 1660: ^{きょ}虚^{じつ} ^お実^ま織^せり^{とく}交^{とく}ぜ^{とく}た^{とく}説^{とく}得^{とく}により、^{まち}街^うを^き写^よす^え許^え可^えを得^えました。
- 1661: ウォロジミールの^{ちり}知^{やく}略^{きよ}を^{しり}拒^ぞ絶^ぞし^む退^てけ^{ぽう}るとは、無^む鉄^{てつ}砲^{ぽう}すぎますよ。
- 1662: ^ご互^{じょ}助^{ぎむ}義^{ぎむ}務^{ぎむ}があるため、^{ちよ}貯^{きん}金^{きん}を^はユ^はヴァ^はス^はキュ^はラの^お母^くに^く送^くります。

1663: パイナップルが桑果^{そうか}ってことは、授^{じゅぎょう}業でやりましたよ。

1664: 教^{きょうかい}会^{いの}で祈るクアルティーナに、綿菓子^{わたがし}を送^{おく}ります。

1665: ゴキブリが殖^ふえたので、アロマのディフューザーで駆除^{くじょ}するのじゃ。

1666: 暖^{だんしょく}色だと、スピエホヴィッチは、シャルトルーズイエロー推^おしですね。

1667: クウは様^{さま}々な人^{ひと}に使^{つか}われ、人^{ひと}違^{ちが}いで危^{あや}うい目^めにあいました。

1668: プリミティーヴォは、奇^き妙^{みょう}な性^{せい}質^{しつ}を有^{ゆう}する酵^{こう}母^ぼを発^は見^{けん}しました。

1669: 奴^{やつ}なら、クエベックには堀^{ほり}がないなどと、ペラペラ喋^{しゃべ}ってますが。

1670: 亡^なき妻^{つま}を恋^こうピヤニッチに、哀^{あい}愁^{しゅう}が漂^{ただよ}って見^みえます。

1671: 月^{げつ}末^{まつ}のゴルフなら、キャディにチュイコフも誘^{さそ}いません？

1672: ディヴィニャーノでは、先^{さき}程^{ほど}からテレビの受^{じゅ}像^{ぞう}がゆがんでますね。

1673: 在^{ざい}学^{がく}期^き間^{かん}に、朱^{しゅ}泥^{でい}急^{きゅう}須^すを近^{きん}距^{きょ}離^りからみ^きたいも^{より}の^{です}。

1674: 明^{みょう}後^ご日^{にち}は七^{しち}月^{がつ}十^{じゅう}六^{ろく}日^{にち}で、虹^{にじ}の日^ひと言^いわれています。

1675: グォーフエイさん、チェロの弦^{げん}の張^{ちやうりよく}力^{ゆる}が、緩^{ゆる}んでますよ。

1676: ピエルパオロが来^くるとの予^よ測^{そく}が外^{はず}れ、シャペルはがっかりしました。

1677: 悪^{わる}足^{あが}搔^かきしても、グェアさんに劣^{おと}る事^{じじつ}実^{くつがえ}は覆^ふりませぬ。

1678: ラギュスのゾンビ好^ずきって、親^{しん}戚^{せき}も御^ご存^{ぞん}知^じでしょうね。

1679: ピョちゃんが、濁^{だく}流^{りゅう}を模^も擬^ぎするバーチャルリアリティアプリを出^だしました。

1680: 僕^{ぼく}は、リヒャルデイスに唆^そされた^{そのか}だけの弱^{じゃく}者^{しゃ}ですよ。

1681: ミエルンには、デュボワの肖^{しょう}像^{ぞう}画^がが、今^{いま}も祀^{まつ}られています。

1682: 奇^き抜^{ばつ}な修^{しゅ}行^{ぎやう}で衰^{すい}弱^{じゃく}し、病^{やまい}で脚^{あし}も虚^{きょ}勞^{ろう}してきました。

1683: ピッツォッケリを藐^{びょう}視^しすることは、直^{ただ}ちにやめましよう。

1684: 部下^{ぶか}のファーディが、ドラキュラに襲^{おそ}われたと 嘯^{うそぶ} いておる。

1685: イエンの知識^{ちしき}は素晴^{すば}らしいが、ヴシュコヴィッチ^{ほど} 程ではありません。

1686: 重^{じゅうこう} 厚^{で き ば} な出来栄^{ぎょがん}えの魚^{ふりょ} 眼^{じ こ} レンズが、不慮^{はそん}の事故で破損しました。

1687: ちょいと 尋^{たず}ねますが、テヤっちゃんってご存^{ぞん}じですかな？

1688: 馬鈴薯^{ばれいしょ}の反^{たんしゅう} 収^{わる} は悪くないと、ピムは力^{りき} 説^{せつ}しました。

1689: 花火^{はなび}も無事に揚^ふがったので、そろそろ 黒^{こく} 白^{びやく} をつけましょう。

1690: ギュリュムは小豆^{あずき}を洗^{あら}い、フェリーでフェスティバルに向かいました。

1691: 身持ち^{み も}が修^{おさ}まり、テョーと叫^{さけ}ぶ癖^{くせ}も 改^{あらた} めました。

1692: キューディッペーは、ファンシィな踊^{おど}りが実^{じつ}に上^{じょうず} 手です。

1693: グザヴィエさん、蛍^{けいこう} 光^{とりょう} 塗^す 料^め ばかりでは、ピカピカ過^めぎて目^{どく}に毒ですわ。

1694: エクィテスは博^{はく} 学^{がく} そうで、実^{じつ}は即座^{そくざ}にウィキペディア^みを見てます。

1695: ヌサドゥアで買^かったシェリー酒^{しゅ}が、酸^すいくなっていました。

1696: セーケシュフェヘールヴァールには、旅^{りょしゅう} 愁^わ らしい侘^わびがありますね。

1697: ピュエシュが退^{たい} 却^{きやく} し、武^ぶ 力^{りよく} のバラン^{くず}スが崩^{くず}れてますね。

1698: 率^{そつちよく} 直^{あなた} に、貴女^{なか}とフィッシャー^{はい}の仲^{ゆうりよ}に、ヒビが入^{はい}ることを憂^{ゆうりよ}慮^{りよ}してます。

1699: デャーナを糧^{かて}に、フィリップ^{おお}は大^{せい}いなる成^{ちよう} 長^と を遂^とげます。

1700: 要^{よう} 略^{りやく} すると、不^ぶ 格^{かく} 好^{こう} でドタドタ歩^{ある} き怪^{あや}しいが、無^む 実^{じつ} ってことか。

1701: んーと、今日^{きょう}は白^{びやく} 夜^や だから、日^{にち} 没^{ぼつ} はありませんね。

1702: バミューダ諸^{しょう} 島^{とう} と比^す 較^ご して、ティコピア島^{ちよ}の住^すみ心^{しん}地^ちは良^らさげかな？

1703: 百^{ひやく} ディナールで厳^{げん} 罰^{ばつ} を免^{まぬ} れるなら、チャッチャと払^{はら} っちゃうぜ。

1704: 旦那^{だんな}がシェミャーカと結^け 託^{たく} し、ヴォジャ^{むら}を村^{はちぶ} 八^ぶ 分^{ぶん} にしたそうだ。

- 1705: レーダーに^{ぎょぐん}魚群が^{うつ}写り、ミューケイジーが^{よろこ}キャーキャー喜ぶ。
- 1706: ^{おそ}恐らくニューニエスの^{どりよく}努力は^{みの}実らず、^{けつれつ}決裂するだろうな。
- 1707: ^{かのじょ}彼女は^{さいえん}才媛だと^も持て^{はや}囃されるが、^{きょぞう}虚像である。
- 1708: ディーディーとヴィクトールは、^{さんじ}三時になると^{たか}高い^{こうちゃ}紅茶を^の飲む。
- 1709: ビュシエール＝ポワトヴィーヌなら、ガイドブックは^{ひつけい}必携だぜ。
- 1710: ヴォエヴォーダの^{すば}素晴らしき^{えんそう}演奏は、^{こころ}心を^{ほとけ}仏のように^{しず}静める。
- 1711: ベレゾフスキーは、^{ほっきがい}北寄貝と^{かんびょうまき}干瓢^た巻をバクバク食べる。
- 1712: ヘートヴィヒ様は^{さま}都^{みやこ}落ちし、^すポンピドゥーと^す過ごすことになった。
- 1713: ^{おば}叔母が、^{とう}トリョフル^{いじゅう}チェヴォイ^{きぼう}島への^{きやつか}移住を希望し、^{きやつか}却下されてた。
- 1714: ゾロリは、^{ねむ}眠いが^{ちょうり}チャプチェを^{おく}調理し、^{おく}パーハムに^{おく}送った。
- 1715: ^{たんざく}短冊に、^ほエトゥープの^かバッグが^{かざ}欲しいと^{かざ}書いて^{かざ}飾った。
- 1716: ^{しょはん}初版の^う売り上げは^あ芳^{かんば}しかったが、^{ぜつばん}絶版になりぬか^{よろこ}喜びだ。
- 1717: あのと^{げんみょうごしゅこう}き、^{にゅうしゅ}玄妙五種香を^{そこ}入^く手し^く損ねたことを、^く悔いている。
- 1718: ^{けいじ}掲示によると、^{あす}チューベローズが^{とど}明日へりで^{とど}届くようだ。
- 1719: ^かデァーと^{ごえ}掛け^{はっ}声を^{ゆうべん}発し、^{ゆうべん}ヴィジャヤは^の雄弁に^のビジョンを^の述べる。
- 1720: ^{おご}トリュフォが^{おご}奢った^{きぼう}ホタテカルパッチョは、^{あた}ヘディに^{きぼう}希望を^{あた}与えた。
- 1721: ^{あまがつば}ゼクシィによると、^{あまがつば}雨合羽で^{あまがつば}デートするのが^{あまがつば}ナウいそうじゃ。
- 1722: ^{ふさい}ヒップホップ^{かか}パーティーで^{ゆる}負債を^ふ抱えたが、^ふ緩やかに^ふファンが^ふ増えている。
- 1723: ^{きやくせん}ヴェルホヴィーネツィの^{ざしょう}客船が^{ざんがい}座礁し、^{ふりゅう}まだ残骸が^{ふりゅう}浮流してる。
- 1724: ^{なよろし}ギェンツェンへの^{わっさむちょう}メッセージが、^{とど}名寄市や^{とど}和寒町から^{とど}届いた。
- 1725: ^{わたし}私は、^{ほそみ}細身の^{おど}シェザナと^{おど}ペアになって、^{おど}パヴァーヌを^{おど}踊る。

1726: ゼウスの仮説を 検 証 するため、病 人 以外はヴヴェイに向かう。

1727: キャバイエ 君、砒素は猛 毒 だから、絶 対 に触れちゃダメだぞ。

1728: ヴィジャヌエバは、蠱惑的な言葉で惑わすから、会うなら気をつけなよ。

1729: ひょっとしてギディーニは、仁王立ちとジョジョ立ちを区別できないのか？

1730: 著 しい 成 長 を遂げたティナは、余 力 がありヨーロッパへ旅立つ。

1731: ギョキツアの優れた 洞 察 力 は、虚 言 癖 の嘘でも見抜けるそうだ。

1732: 水 害 から守 るための 堤 に、パパラッチが謝意を示す。

1733: 軍 曹 は傷を縫うや否や、「ぬん」と 飛 龍 の牙を投げつけたのじゃ。

1734: 御母堂の 傍 らに立つのは、領 主 のドラピエールだろう。

1735: 面皔が心 配 なクズネツォワは、皮膚科を予約した。

1736: ツォーが演 説 で、「チャ」を「テャ」と発 音 したことで、疑惑は拭 払 された。

1737: 旬 のエシャロットや 春 菊 が具材の、栄 養 満 点 の鍋だ。

1738: ペヴェナージさん、座 興 だとしても、それはやり過ぎだぜ。

1739: おお、水面に宿 す月 影 の水墨画を、フェリーニョは見事に 描 くね。

1740: 校 閲 者 は十 円 でよくやってくれたよと、夜 空 を見て微笑んだ。

1741: ヨルダンの料 理 人 ヨシュアは、あらゆる添加物を使わぬ主義だ。

1742: ピアチェンツァは、侮蔑的な誹謗には毅然と返 報 する。

1743: ゲオルグの 仇 を討つため、姉をギュウエルジン 島 へ呼ぶ。

1744: 「グォ」を含む接続詞は、日本語には存 在 しない。

1745: 三つ 巴 をビェリーイエフが制したが、ポタポタ 流 血 してたな。

1746: ギリエルモは、腕 力 に任せてボロボロのボートを漕ぐ。

1747: ペルセウス殿が日射病なので、喉を湿す水が欲しいのじゃ。

1748: 風が弱まったので、ユーフェはパイプを取り外した。

1749: 涼しい場所を求め、エステーヴは占冠へ旅立った。

1750: 胸部圧迫骨折で、グアという呻き声すら出てこぬ。

1751: アクウシラオスは純情だから、プレゼントに花束を贈ろう。

1752: ポレヴォイは、ジェナッツァーノに数多の益虫が棲むことを発表した。

1753: 御膝下でヒョヒョヒョと笑い、齷齪働く人を小馬鹿にしてるな。

1754: フィレステーキに生醤油を垂らすと、至福の味だぜ。

1755: ベビーピンクで余所行きの服を、白檀と共にエマへ委ねる。

1756: ジェノヴァには、親の仇がいとギュヴェンは言い、自嘲気味に笑った。

1757: ギュファンをコチョコチョ擦ったが、別に誇ることはないよ。

1758: ピューラーの老舗で、俗な一品が続々と入荷してきた。

1759: テュスフィヨールを駆け抜けたけど、目的地はどこだ。

1760: 手抜きを改め、キュキュっとなるまで食器を磨くように。

1761: 自らの可能性を狭めるジョプリンを、ピロヴァノが励ます。

1762: シュヴェーズィヒの秘書なら、問屋の窓口を知ってるはずだよ。

1763: ジェラートのブームを続けるため、タルトゥフォも発売しよう。

1764: 儂は世俗には疎く、ヒュヴァリネンなどは知らぬよ。

1765: 不調時には、雑炊と湯たんぽで体を温めて寝よう。

1766: ポリエステルとシルクが混ざり、エデュークには区別できない。

1767: ピニャータを製作し衰弱したが、粥とパイナップルで回復した。

1768: 小児科から、ビエーンやピエーンに加^{くわ}え、テョーンと^{へん な ごえ}変な泣き声がするな。

1769: 偏屈^{へんくつ}なウィッチは、井然^{せいぜん}としていないものを、躊躇^{ちゅうちょ}せず攻^{こう}撃^{げき}する。

1770: 鉄砲^{てっぽう}の弾^{たま}がデイズに^あ当たり、ボシャルは^{げきど}激怒した。

1771: チャパクアで、博打^{ばくち}に^ま負けた^{ふそく}不足を、曲^{きょく}芸^{げい}で^{まかな}賄^まった。

1772: ナウなヤングにバカウケという^{ふうちょうづく}風潮作りは、ビョルヴィカの^{せんじゅつ}戦術^{せんじゅつ}なの。

1773: ヒェルトウルは、ホンジュラスへの^{りゅうがく}留^{りゅうがく}学^{がく}を^{つよ}強^{つよ}く^{しばう}志望^{しぼう}している。

1774: 逆風^{ぎやくふう}に^ま負けず^か勝ち^と取った^{たからばこ}宝^{たから}箱^{ばこ}が、空^{から}っぽで^{ぶぜん}無^{ぶぜん}然^{ぜん}とした。

1775: あー、ペルフェッチに^{とくそく}督^{とくそく}促^{そく}の^{つた}ニュ^{つた}ア^なンスは、^な伝^なわ^なって^な無^ない^なね。

1776: 現金^{げんきん}四^{よん}百^{ひゃく}四^{よん}十^{じゅう}四^{よん}円^{えん}で、^{えら}ウォ^{えら}ッカ^{えら}を^{えら}選^{えら}んだ。

1777: 顔^{かお}の^{うぶげ}産^{うぶげ}毛^きを^き気^きにする^きピ^きャ^きタ^きコ^きフは、^{だつもう}脱^{だつもう}毛^{もう}し^{まよ}よう^{まよ}か^{まよ}迷^{まよ}う。

1778: 秩序^{ちつじょ}を^{だき}唾^{だき}棄^きすれば^{むちつじょ}無^{むちつじょ}秩^{つじょ}序^{つじょ}に^{つぶ}潰^{つぶ}され^{おそ}ると、^{おそ}トゥ^{おそ}ファ^{おそ}に^{おそ}教^{おそ}わ^{おそ}った^{おそ}よ^{おそ}ね^{おそ}？

1779: あり^{すこ}や^{あた}り^{あた}や、^のキュ^のヴ^のェ^のは^の少^{だいごみ}し^{だいごみ}だ^{だいごみ}け^{だいごみ}温^{だいごみ}め^{だいごみ}て^{だいごみ}飲^{だいごみ}む^{だいごみ}の^{だいごみ}が、^{だいごみ}醍^{だいごみ}醐^{だいごみ}味^{だいごみ}だ^{だいごみ}ぞ。

1780: プールの^{あと}後^あは、^{ちゃしつ}茶^{せん}室^{ちや}で^の煎^の茶^{やす}でも^{たま}飲^{たま}んで^{たま}休^{たま}み^{たま}給^{たま}え。

1781: プツォンツィの^{たび}旅^いには^い行^いった^いけど、^{そとがわ}外^{なが}側^{なが}から^{なが}眺^{なが}め^{なが}ただ^{なが}け^{なが}だよ。

1782: グィーディは^{うんゆきよく}運^{うん}輸^ゆ局^{きよく}に^{つと}勤^{つと}め^{つと}て^{つと}から、^しリ^あャ^あプ^あノ^あフと^あ知^あり^あ合^あった。

1783: 緑^{ろく}青^{しゅう}を、^{さび}錆^しだと^し知^しら^しぬ^しシェ^なン^なキ^なェ^なヴィ^なチが、^な何^な気^ななく^な舐^なめ^なた^なって^な？

1784: 一^{いっぴよう}票^{いっぴよう}は^{きそく}一^{きそく}票^{きそく}の^{さんびよう}規^{さんびよう}則^{さんびよう}だから、^{さんびよう}三^{さんびよう}票^{さんびよう}に^{さんびよう}や^{さんびよう}で^{さんびよう}き^{さんびよう}な^{さんびよう}い^{さんびよう}っ^{さんびよう}て。

1785: チェザレにとって、^{ふくしよくざつか}服^{ふく}飾^し雜^し貨^しの^{しゆみ}ショ^{しゆみ}ッ^{しゆみ}ピ^{しゆみ}ン^{しゆみ}グは、^{しゆみ}趣^{しゆみ}味^{しゆみ}なん^{しゆみ}だ^{しゆみ}ろ^{しゆみ}？

1786: 緩^{ゆる}い^{ゆる}テン^{ゆる}ポ^{ゆる}の^{ゆる}ポ^{ゆる}ッ^{ゆる}プ^{ゆる}ミ^{ゆる}ュ^{ゆる}ー^{ゆる}ジ^{ゆる}ッ^{ゆる}クを^き聴^きき^きな^きが^きら、^{おが}グ^{おが}ウ^{おが}を^{おが}舐^{おが}む。

1787: 必^{ひつ}修^{しゅう}の^{ひつしゅう}レ^{ひつしゅう}ポ^{ひつしゅう}ー^{ひつしゅう}ト^{ひつしゅう}は、^{ひつしゅう}デ^{ひつしゅう}ョ^{ひつしゅう}レ^{ひつしゅう}ト^{ひつしゅう}バ^{ひつしゅう}グを^{ひつしゅう}タ^{ひつしゅう}ー^{ひつしゅう}ゲ^{ひつしゅう}ッ^{ひつしゅう}ト^{ひつしゅう}に^{ひつしゅう}し^{ひつしゅう}て^{ひつしゅう}み^{ひつしゅう}る^{ひつしゅう}よ。

1788: 穩^{おん}便^{びん}に^す済^すませ^する^すつ^すも^すり^すだ^すった^すが、^{ふふく}ド^{ふふく}ウ^{ふふく}ム^{ふふく}バ^{ふふく}ー^{ふふく}ゼ^{ふふく}は^{ふふく}不^ふ服^{ふく}で^{ふく}あ^{ふく}る^{ふく}よ^{ふく}う^{ふく}だ。

- 1789: スイトジェフティは、ボロボロの生活に苦しめられている。
- 1790: グェルフィは、路上でペンネパスタの屋台を、悠々と引く。
- 1791: 伯父がウェロニカにへしこを食わせ、これが抜群に旨かったらしい。
- 1792: 窓ガラスにぶよぶよとした、得体のしれない物体が張り付いた。
- 1793: クインマンサを撃墜できるのであれば、子供か否かは問わぬ。
- 1794: おっと、ブルゴーニュワインに添えるチーズが、焦げてしまった。
- 1795: クェイクの一人称が朕だなんて、明らかに変だろ。
- 1796: 外科のヴァシャゼは、密かにゼフュロスを吹き、憂さ晴らしする。
- 1797: ノーショーピングで、樹木が茂るゾーンに風情を感じる。
- 1798: パサマクォディ部族に手紙を書くなら、アルファベット文字で平気だよ。
- 1799: ツェロフハドは、溶けたピーチアイスを床に落としてしまった。
- 1800: ミェチスワフは鉛筆集めが好きとの俗説は、後に覆る。